

## 本大会 | 1日目

### 第9回ACRP東京大会開会式で平和の鐘を打ち鳴らす

2021年10月19日、『行動するアジアの宗教コミュニティ：誰一人取り残さない、健やかで豊かなアジアの平和をめざして』をテーマに、アジア太平洋地域の22カ国から約300名の青年、女性、高位宗教指導者らが参加し、第9回ACRP東京大会が開幕した。新型コロナウイルスのパンデミックの中での開催だったため、日本の東京にある立正佼成会の法輪閣に限られた人たちが対面で集い、ほとんどの代表者はオンラインで参加するといった、招集方式を組み合わせた形での大会となった。



新型コロナウイルスのパンデミックは、世界に未曾有の悪影響を及ぼしてきた。今回の大会は、ACRP史上初のオンライン大会で、アジアのさまざまな宗教伝統の結束、ACRP事務総長の**根本信博師**の言葉を借りれば「アジアの多くの非常に多様な宗教コミュニティが、社会的弱者、社会的差別、ジェンダー差別、ヘイトスピーチのない、つまりは民族的な排斥をしない包摂的なアジアを目指すよう励まし、促すこと」を提示するものである。このミッションにおいて、ACRPは、「誰一人取り残さない」ことを保証すべきであると強調した。

大会は、パンデミックや、あらゆる形の不正、暴力、虐待の被害者となって苦しむ人々と連帯するため、世界のために精神的な癒しとなる伝統的な習慣「お浄めの舞」で幕を開けた。続いて、**三宅光雄師**（日本）、**カルロス・レイス師**（フィリピン）による諸宗教の祈り、**フマ・カシフ氏**（パキスタン）によるコーランの朗誦が行われた。

ACRP実務議長であり、WCRP/RfPインドネシアの会長でもある**ディン・シャムスディーン博士**は、今回の総会をACRPの変化の機会と述べ、「行動」という言葉の重要性を強調した。博士は「ACRPのメンバーは、行動志向であり、問題の解決者であるべきだ」と喝破した。博士にとって「大会は、私たちリーダー全員が自国の問題を話し合うための対話に取り組む場である。このことが私たち地域の平和のための大きなムーブメントになることを期待する」ものである。

このような再生への取り組みは、まず心からの感謝の気持ちで始まった。立正佼成会の会長であり、ACRPの共同会長でもある**庭野日鏡師**は、「このような機会を与えてくださった皆様に感謝します」とメッセージを述べた。同師は、すべての参加者、主催者、そしてすべての宗教指導者が、アジアで平和と思いやりの鐘を打ち鳴らしていることに心からの感謝の意を表した。また、今回の大会の主な目的は、生命の尊厳を育み、人身取引を防止し、紛争を和解させ、環境を整備し、青年リーダーを育成することであることを確認した。

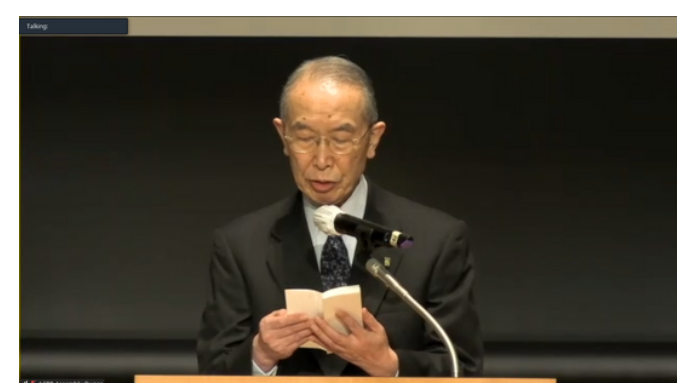
WCRP/RfP国際委員会の事務総長、**アッザ・カラム教授**は、ACRPを「RfP国際委員会の重要な構成要素であり、指導者であり、助言者である」と評価する。異なる宗教が一同に会して結束する場となる大会は、宗教コミュニティが人々、特に弱い立場にあるコミュニティに奉仕するために集う最も偉大な実例である。

ACRPを待ち受ける計り知れない課題に対して、日本宗教連盟理事長の**大柴讓治師**は、祈りこそが多宗教の共同行動におけるユニークな要素であることを皆に思い起させた。そして、「人々への愛と慈悲をもって、絶えず祈り、協働することを願っています」と述べた。最後に、この大会が実りある建設的なものになることを願って、祝辞を終えた。

前環境大臣、**小泉進次郎氏**は祝辞の中で、気候変動やその他の社会的諸課題に対処するために、宗教指導者がその本質的で重要な役割を行動に移すよう、呼びかけた。「政治と宗教は、人々を幸せに導くもの。（気候変動の克服を）達成するために、我々は協力していかなければならない」と述べた。

開会式では、青年事前大会及び女性事前大会の成果も報告された。APIYN新モデレーターに選出された**レンツ・アルガオ博士**は、報告の中で「環境保護、平和と安全の促進、生命の尊厳に関する教育の推進、人身取引との闘い、青年代表のリーダーシップの推進に焦点を当てたプロジェクトやプログラムに着手する」と述べた。APWoFN新議長に選出された**エルガ・サラプン師**は、「あらゆる人々の平和を実現するために、開発の方向性を企画・改善する役割において、女性と男性の双方にバランスの取れた機会と信頼を提供することが重要である」と述べた。

開会式は、和太鼓の**響道宴氏**、津軽三味線の**山中信人氏**によりドラマチックで胸を打つ演奏が行われ、芸術を通じた平和のメッセージの響きによって終了した。



## ライフスタイルの変化、宗教の役割

基調講演者の**竹村真一教授**は「触れる地球」の考案者で、京都芸術大学教授、NPO「Earth Literacy Program」代表である。講演は、人新生（anthropocene）における人と地球の共進化に関する詳細かつ有益な多くの知識を与えてくれる発表となった。竹村教授は3次元の技術を用いて、地球温暖化の様子、その要因、そして私たちの共通の家である地球への影響を示した。

興味深いことに、教授によれば、気候危機に対処し地球破壊を回避するための最善の方法は、ライフスタイルの変化であるという。今日の私たちの生活は、人間の命のみならず、地球の存続をも脅かすシステムと構造に基づいている。教授はアジアの宗教指導者達に、「シンプルなライフスタイルと環境を再生する文化を身につけることで、地域社会での良い生活を推進する役割を果たしてほしい」と呼びかけた。



## 行動指向型の規約

1976年にシンガポールで開催された第1回大会以来、ACRPは、アジアの人々のニーズや懸念に即して、さらに対応していく組織となるべく歴史的な決断を下してきた。このことは、ACRPの今後の指針となる新たなACRP規約の承認において具体的に示されている。ACRP副実務議長兼構造・手続委員会委員長のデズモンド・カーヒル教授は、新規約ならではの特徴は、ACRPを行動志向型で対応の早い諸宗教組織にしていく、という点だと述べた。

## 東ティモールが22番目のACRPチャプターに

ACRPのリーダー達は、WCRP/RfP東ティモールの暫定加盟を承認した。WCRP/RfP東ティモールは、ACRPの22番目のチャプターとなる。東ティモールはアジアの中でも比較的小さな国で、人口は約130万人、大多数がキリスト教を信仰している。今後も交渉を続け、1年後には正式加盟となることが期待されている。

